

第4回男女共同参画学協会連絡会 大規模アンケートの概要と 解剖学会員回答の分析

2020.6.4

日本解剖学会 男女共同参画推進委員会

今回紹介する大規模アンケートとは



【実施団体：男女共同参画学協会連絡会】HPはこちら

- 男女共同参画社会基本法の公布等を受けて2002年に12学会で発足。
- 現在108の理工系学会が加盟する任意団体。

【アンケートの概要】（科学技術系専門職の男女共同参画実態調査）

目的：理系研究者の男女共同参画の実態把握と課題の抽出

方法

- 加盟学会を通じて学会員がWeb上でアンケートに回答、結果を解析
- 2003年～2016年に4回実施。（今回は2016年の結果を紹介）
- 各回39～98学会、14,000～19,000人が参加。

結果報告と実績

- 報告書を作成、データをもとに提言・官公庁への要望活動。
- 各種白書、国の基本計画、支援事業等に反映されている。

アンケート実施の概要

- アンケート項目策定
プレWG・実施WG
2015年4月～2016年9月
- アンケートの実施
2016年10月～2016年11月
- アンケート回収状況
回答総数 18,159
(前回より約2,000増加)
男性 13,162
女性 4,997

大規模アンケートご協力をお願い 2016年10月8日(土)開始!

男女共同参画学協会連絡会では、第4回大規模アンケート調査【科学技術系専門職の男女共同参画実態調査】を実施いたします。調査の対象は、広く日本の自然科学系研究者・技術者（学生を含む）であり、性別、職の有無、所属学会などを問いません。下記ホームページよりアクセスいただき、Web上でご回答をお願いいたします。多くの皆様のご協力をお願いいたします。

連絡会大規模アンケートは我が国の政策決定に反映されています!

第1回大規模アンケート
(2003) 回答数19,291件

調査結果の掲載

2005年度～ 男女共同参画白書
2006年度～ 科学技術白書

第2回大規模アンケート
(2007) 回答数14,110件

国の基本計画に明文化!

- ・2005: 第2次男女共同参画基本計画
- ・2006: 第3期科学技術基本計画
- ・2010: 第3次男女共同参画基本計画
- ・2011: 第4期科学技術基本計画

第3回大規模アンケート
(2012) 回答数16,314件

国の事業に反映!

- 2006年度～
- ・女性研究者研究活動支援事業
 - ・RPD制度
 - ・女子中高生理系進路選択支援事業
- 2009年度～
- ・女性研究者養成システム改革加速
- 2015年度～
- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

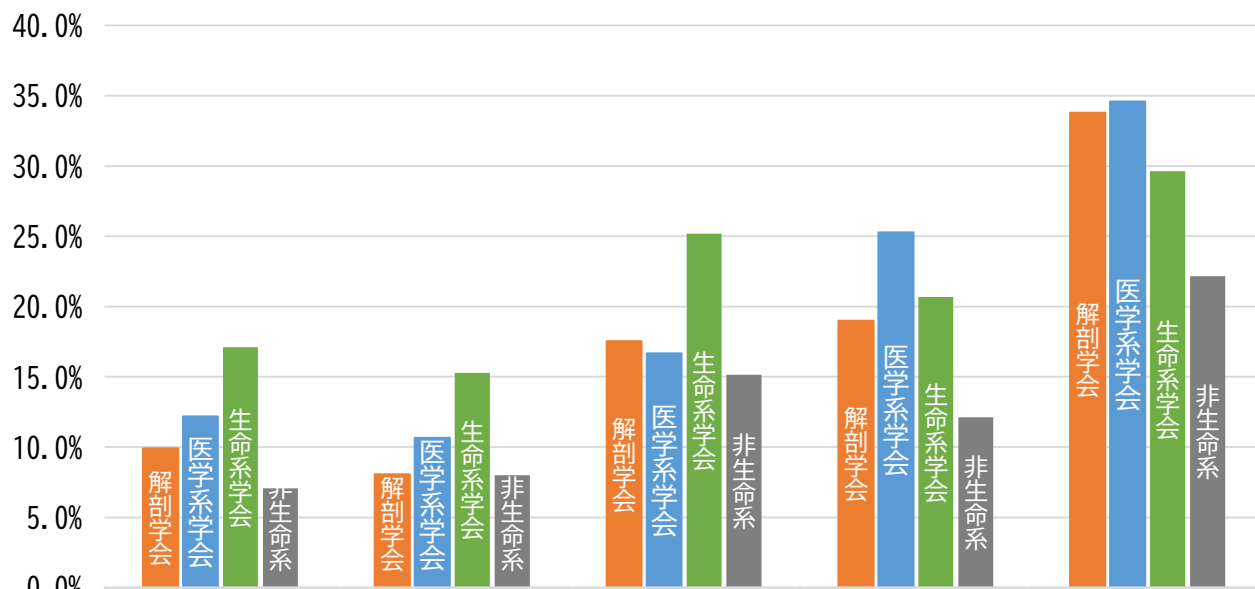
第4回大規模
アンケート
(2016)

概算要求の増額を実現!

本アンケートは、私たち自然科学系研究者・技術者に関する私たちのための、私たちによる貴重な統計データとなります。

男女共同参画学協会連絡会 <http://www.djrenrakukai.org/>

解剖学会とその他の学会の男女比およびアンケート参加状況



	回答率	男性会員の回答率	女性会員の回答率	会員の女性比率	回答者の女性比率
■ 解剖学会	9.9%	8.1%	17.5%	19.0%	33.8%
■ 医学系学会	12.2%	10.7%	16.7%	25.3%	34.6%
■ 生命系学会	17.1%	15.3%	25.2%	20.7%	29.6%
■ 非生命系	7.1%	8.0%	15.2%	12.1%	22.2%

医学系学会 (会員数)
 解剖 (2311)
 体力医学 (3936)
 歯科基礎医学 (1969)
 生理 (1909)
 熱帯医学 (576) 5学会

生命系学会 (会員数)
 解剖 (2311) を含み
 分子生物学会(12983)
 生化学会(7483)
 神経科学会(5861)等
 44学会

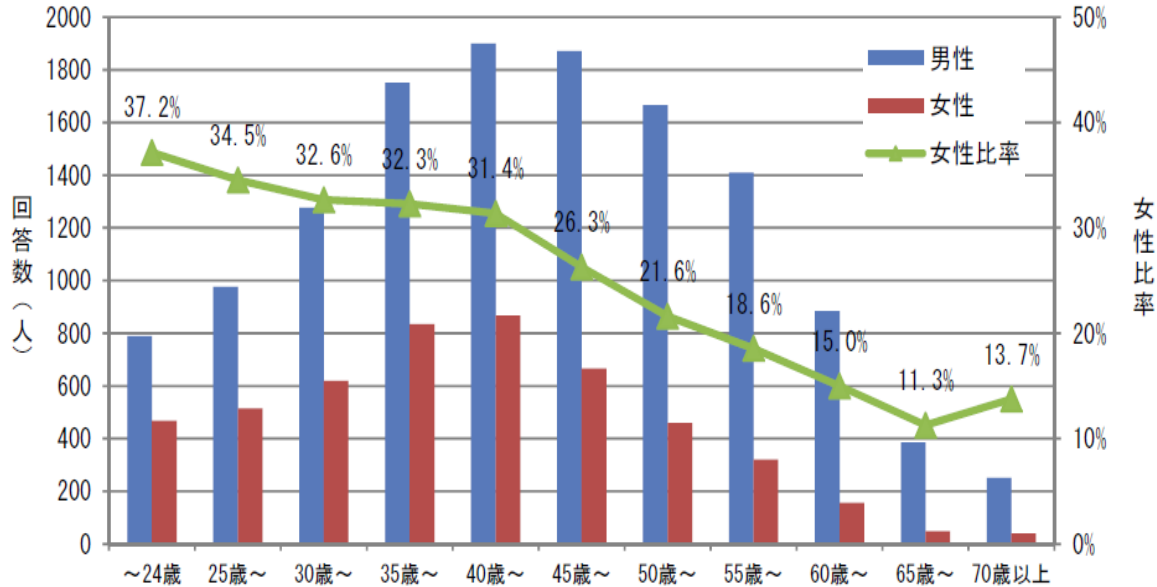
解剖学会 回答者総計 228名/会員数2311名
 男性：151名 (男性学会員1872人の8%)
 女性：77名 (女性学会員439人の17.5%)
 (女性比率 33.8%/学会員の女性比率は18.9%)

全学会 回答者総計 18159人
 (男13,162人 女4,997人, 女性比率 27.5%)

- 解剖学会のアンケート回答率は医学系・生命系学会の中では低い。約1割。
- どの学会でもアンケートの回答率は女性会員の方が高い。
- 解剖学会員の女性比率は19%。医学系5学会平均より低い。生命系学会の平均レベル。

回答者の年齢分布と女性比率

全学会



回答者総計 18,159名

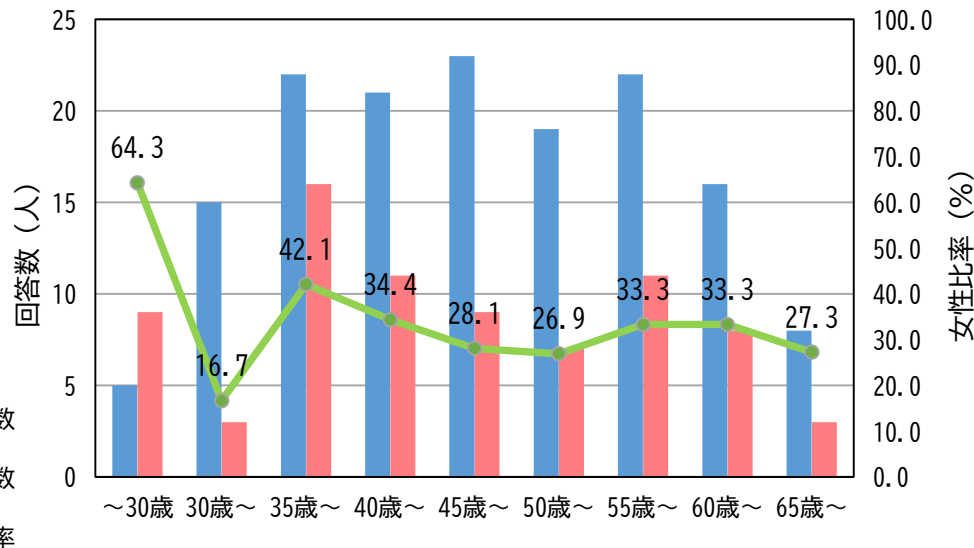
男性：13,162名

女性：4,997名

(女性比率 27.5%)

・高年齢ほど女性比率が低い。

解剖学会



回答者総計 228名

男性：151名 平均年齢 47.9歳

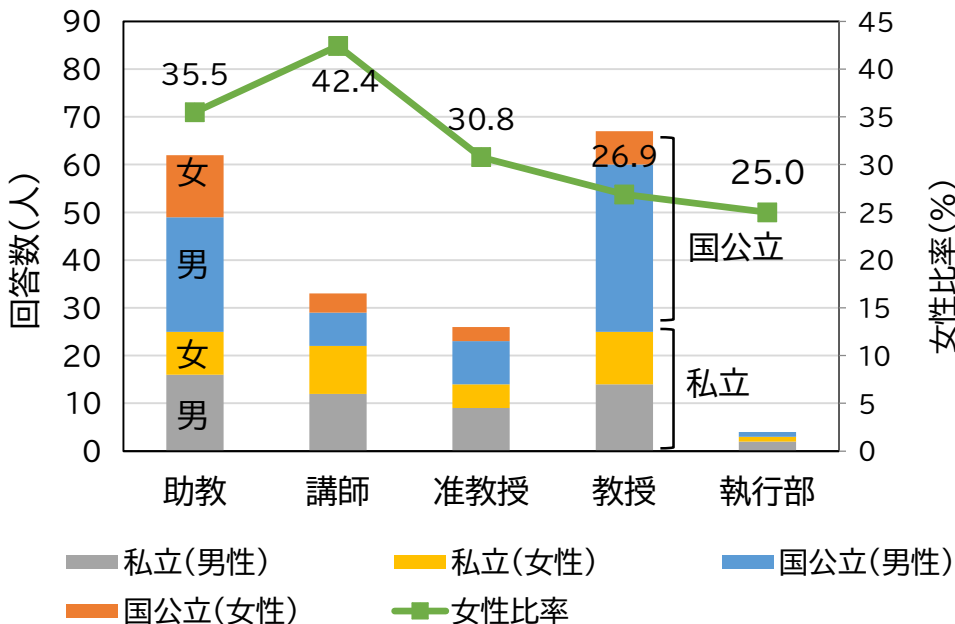
女性：77名 平均年齢 45.7歳

(女性比率 33.8%)

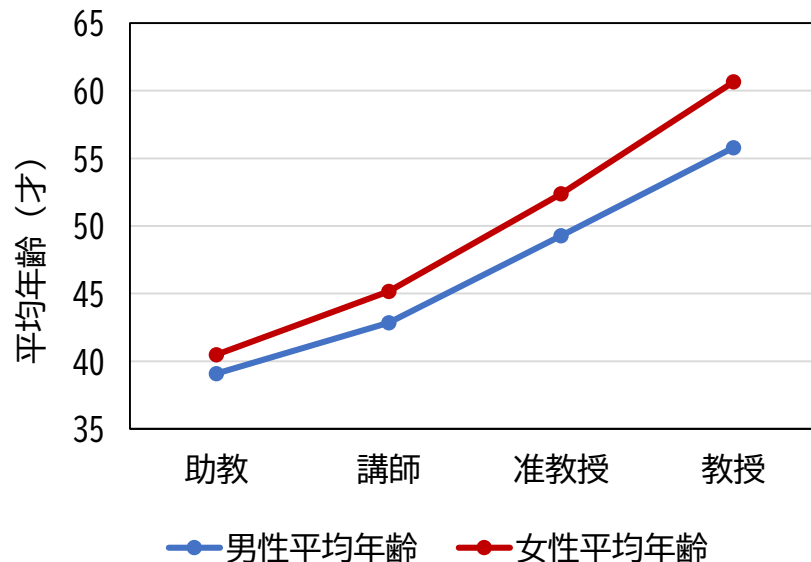
・解剖学会回答者は高年齢層でも女性比率が高い水準を維持。

解剖学会員（大学教員）各職位の所属先と平均年齢

職位ごとの所属機関と女性比率



男女各役職の平均年齢



- ・ 教授の回答数が最多。
- ・ 助教と教授は国公立所属者の割合が高いが、女性は私立の割合が高い。
- ・ 女性比率 (—) は准教授以上の職位で低下。
- ・ 教授の女性比率 (26.9%) は全学会平均 (17.1%) よりは高い。

- ・ 高い職位では男女の平均年齢に差が広がる。(女性 > 男性)



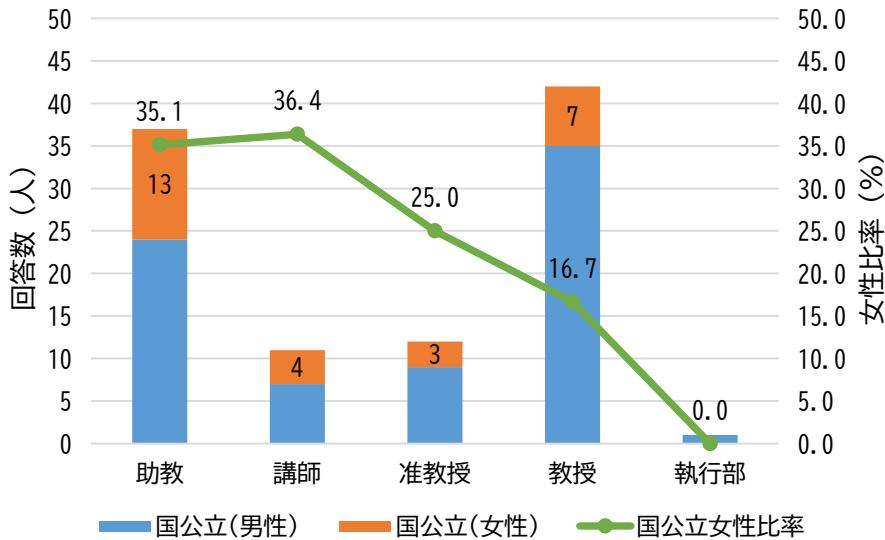
女性は男性ほど昇進していない、昇進が遅れている



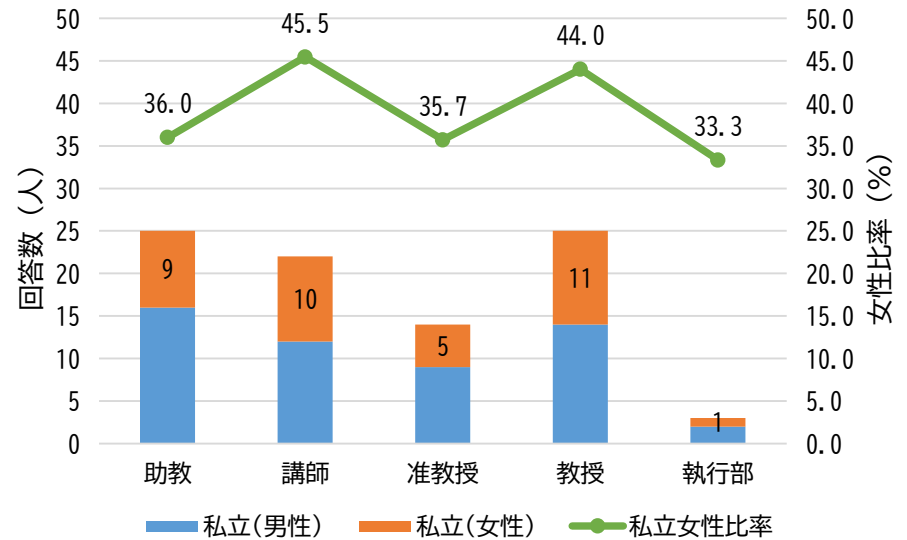
※ 解剖学会回答者全体の女性比率:33.8%

役職ごとの女性比率：国公立と私立の比較（助教以上）

国公立大学 各役職男女数と女性比率



私立大学 各役職男女数と女性比率



- ・助教と講師の女性比率は全体の女性比率（33.8%）とほぼ同じだが、准教授より上の職位で減少。
- ・執行部（学部長以上）の女性回答数はゼロ。

- ・すべての職位で全体（33.8%）とほぼ同じかそれを上回る女性比率。

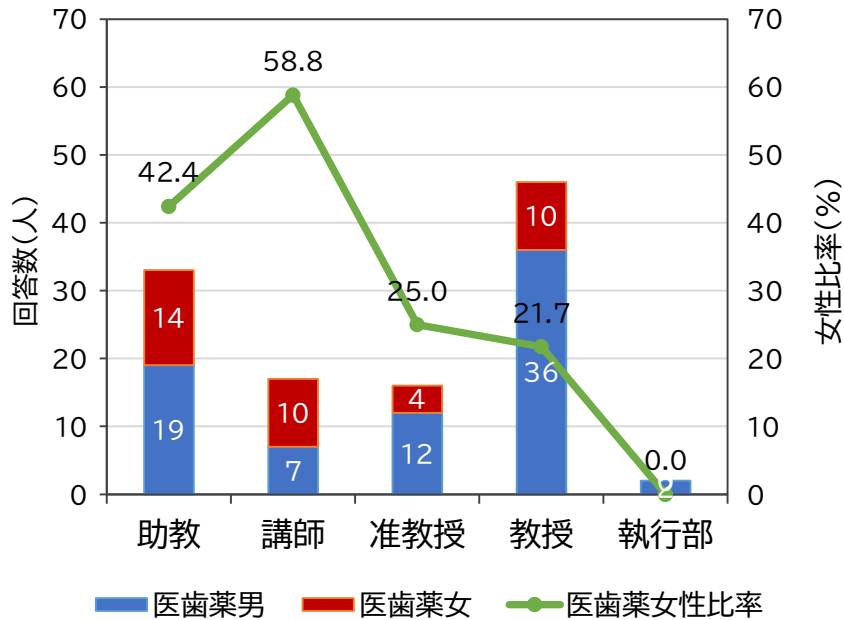
国公立の高い職位では女性比率が低下。

私立では職位が上がっても女性比率が下がらない。

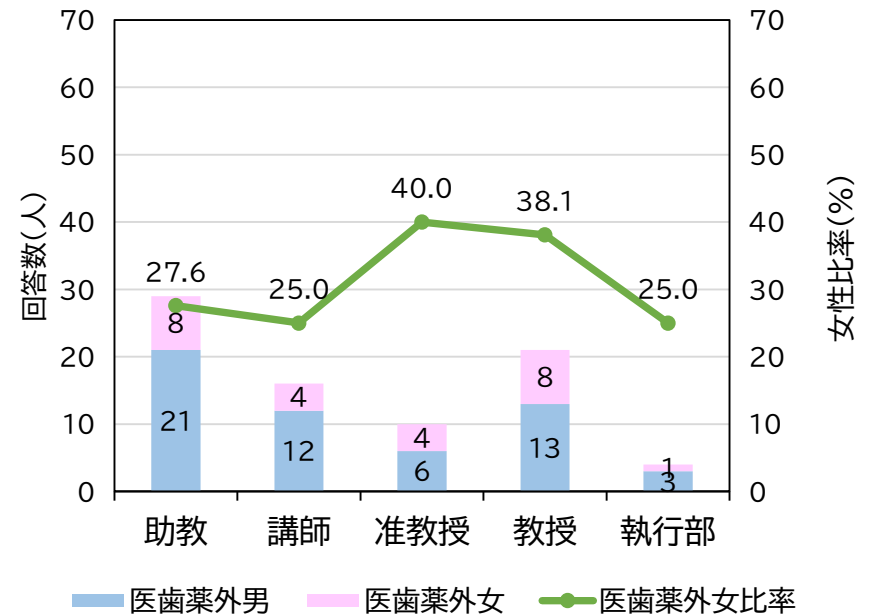
※ 回答者全体の女性比率は33.8%

各職位の女性比率を所属分野で比較（助教以上）

医歯薬分野男女数と女性比率



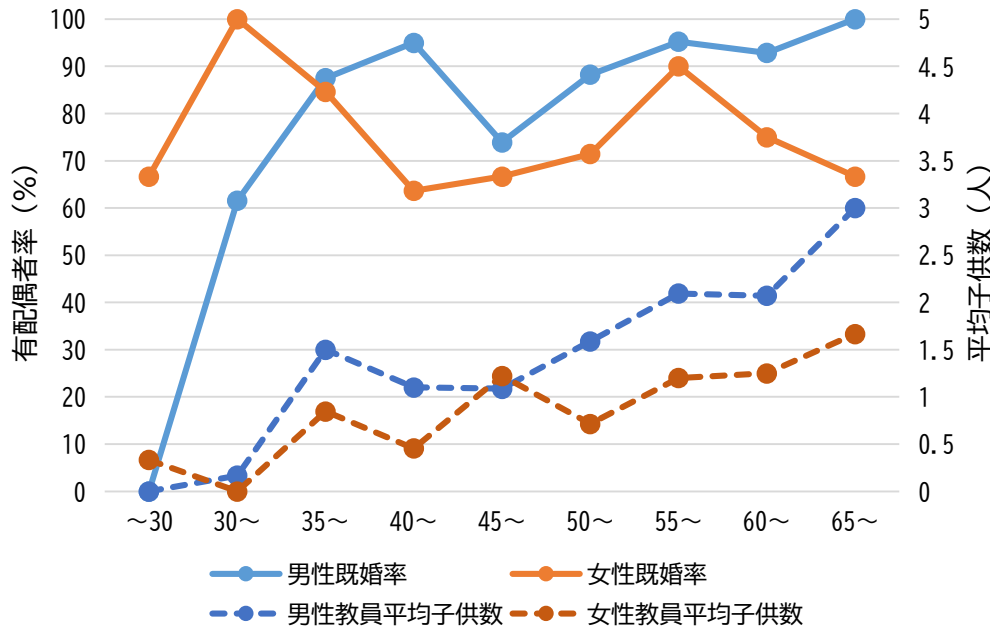
生物保健農学分野男女数と女性比率



- ・ 執行部以外すべての職位で医歯薬分野に所属する回答者が他分野所属の合計数よりも多い。
- ・ 医歯薬分野の女性比率は、助教・講師では全体の女性比率33.8%を上回っているが、准教授以上では漸減。
- ・ 医歯薬以外の分野では、職位上昇に伴う女性比率の低下はあまり見られない。

大学教員のライフイベント男女比較

男女大学教員の既婚率と子供の数



配偶者有/男性大学教員 83.5%

配偶者有/女性大学教員 74.6%

子有/配偶者有 (男性) 81.3%

子有/配偶者有 (女性) 77.6%

子有/男性大学教員 68.8%

子有/女性大学教員 60.0%

子供の数 (男性大学教員) 1.42人

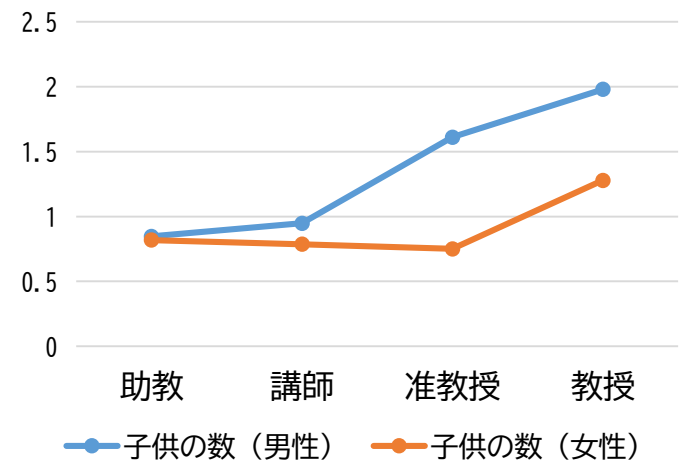
子供の数 (女性大学教員) 0.83人

子供の数 (子有男性教員) 2.02人

子供の数 (子有女性教員) 1.54人

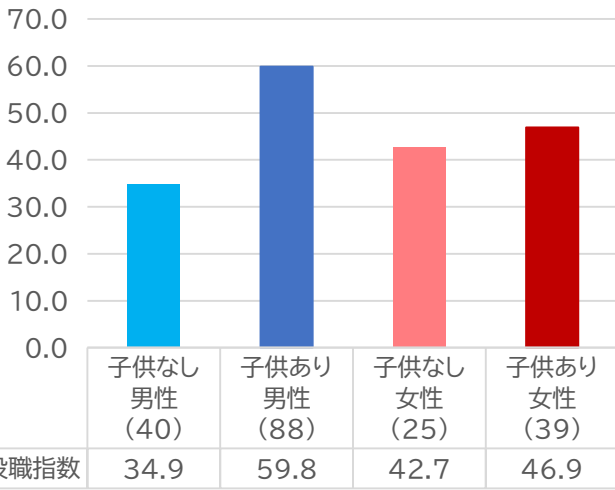
- ・ 男性では有配偶者率、子供数が年齢、職位と正に相関。
- ・ 女性では年齢とともに有配偶者率は上昇しない。子供数は上昇するが男性より低レベル。
- ・ 配偶者有り男女を比較しても、男性の方が子供をもつ人の割合は多い。子有り男女の比較でも、男性の方が子供数が多い。
- ・ 高い役職で男性の方が子供数が多い。

役職と子供の数



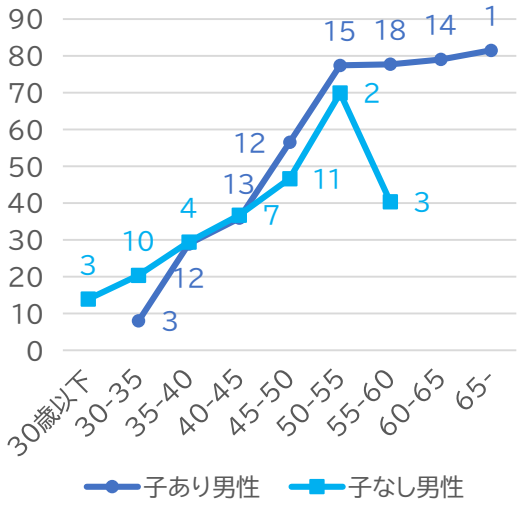
子供とキャリアアップ

子供の有無と役職指数平均

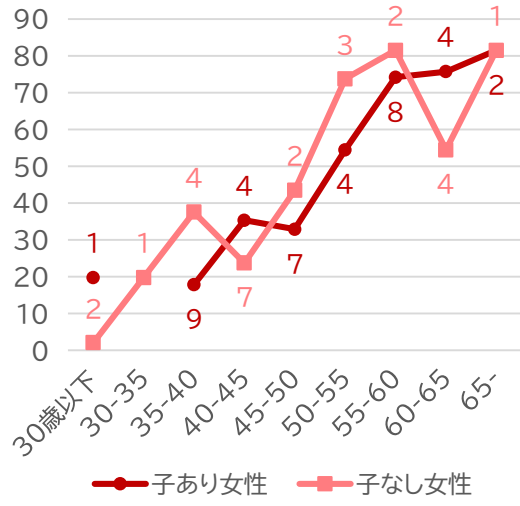


- ・サンプル数が少ない。(特に女性)
- ・役職指数は子有男性群が最も高い。
- ・男性の子有率は年齢, 職位と正の相関しており子供は昇進を妨げていない。女性の子有率は年齢, 職位との相関が男性より低く子有女性は昇進が遅い傾向。

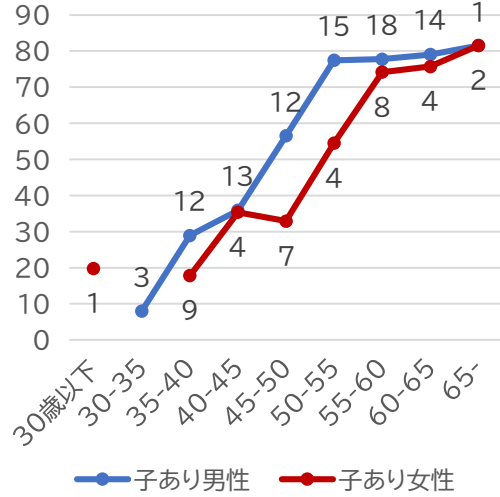
子の有無と役職指数(男)



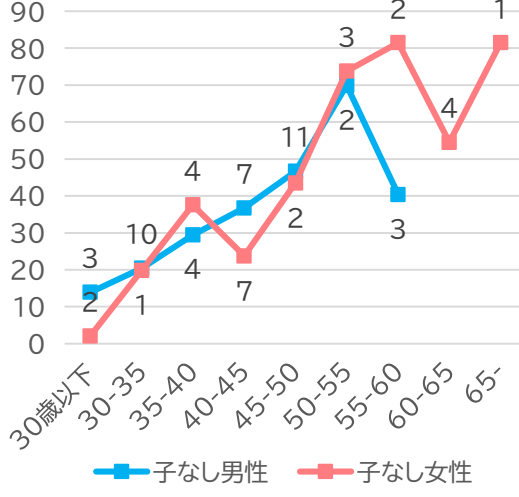
子の有無と役職指数(女)



男女の役職指数(子供有)



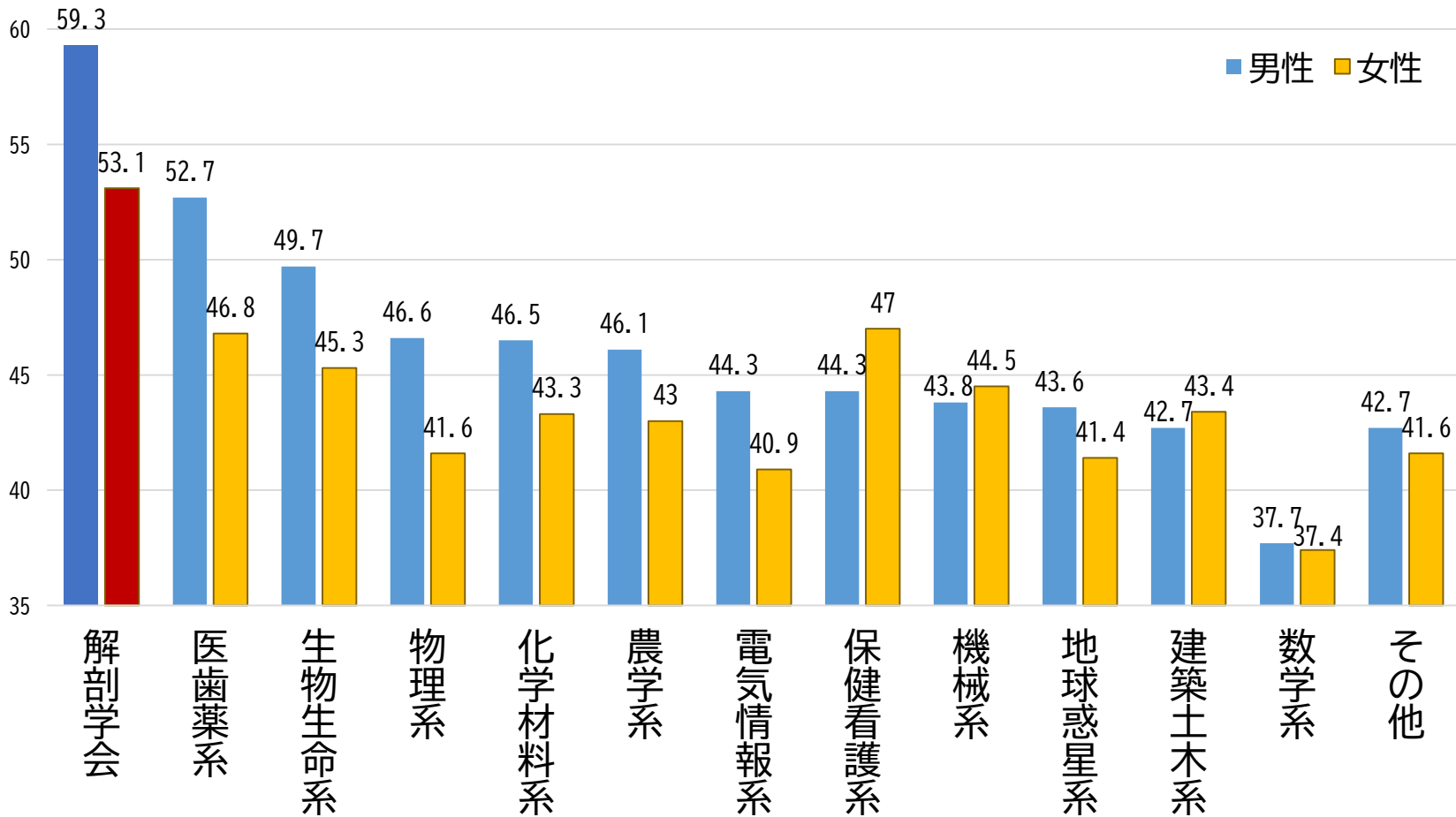
男女の役職指数(子供無)



役職指数

助教 4.2~35.4 (役職指数 19.8)	講師 35.4~51.6 (役職指数 43.5)	准教授 51.6~65.1 (役職指数 58.3)
教授 65.1~97.9 (役職指数81.5)	執行部 97.9~100 (役職指数 99.0)	

アンケート回答者の職場滞在時間（分野別）

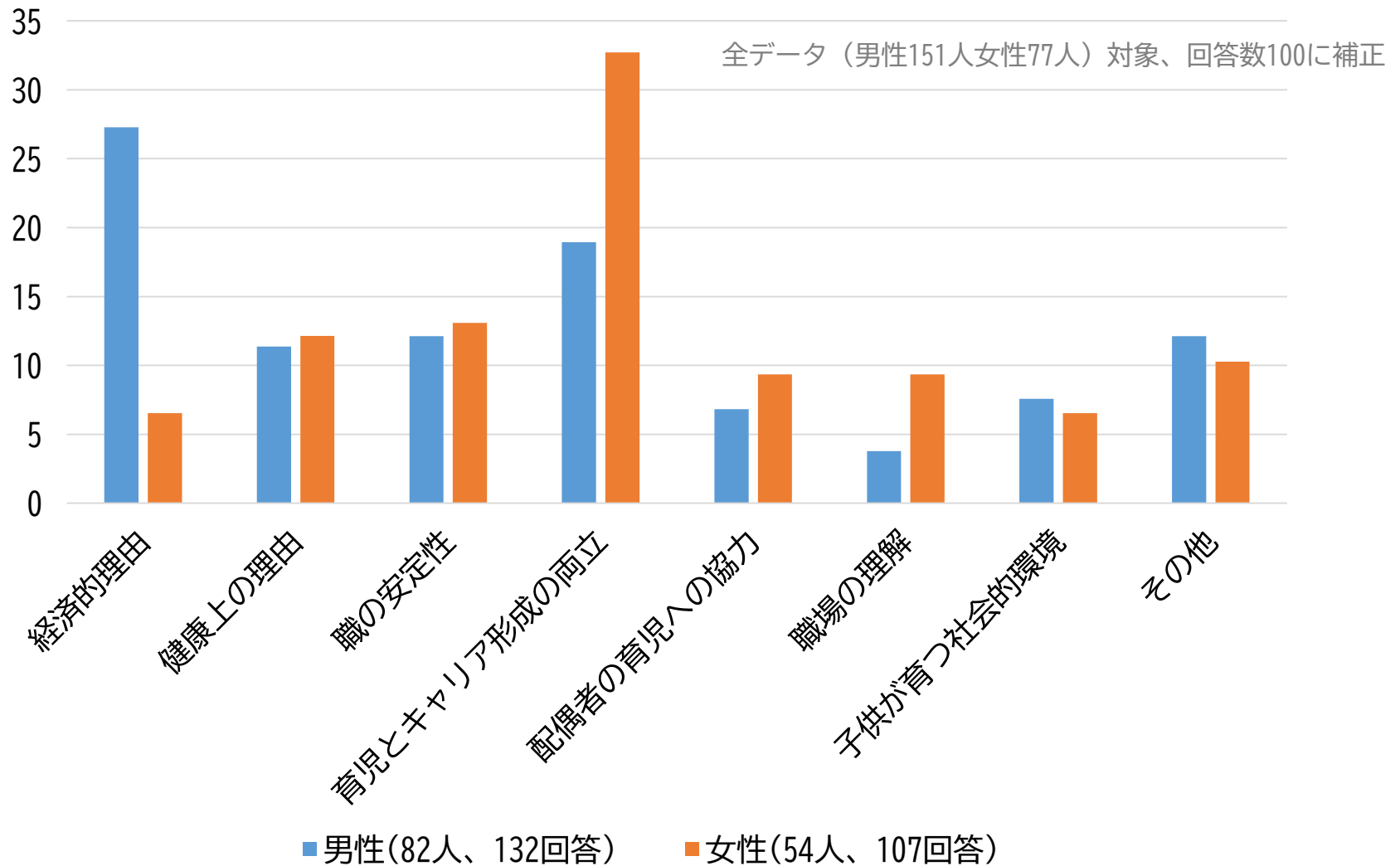


生命系、医歯薬系は職場滞在時間が長い。中でも特に解剖学会員は長い。

男性：全学会 47時間 < 医歯薬系 52.7 時間 < 解剖学会 59.3 時間

女性：全学会 44時間 < 医歯薬系 46.8 時間 < 解剖学会 53.1 時間

理想の子供数をもてない理由

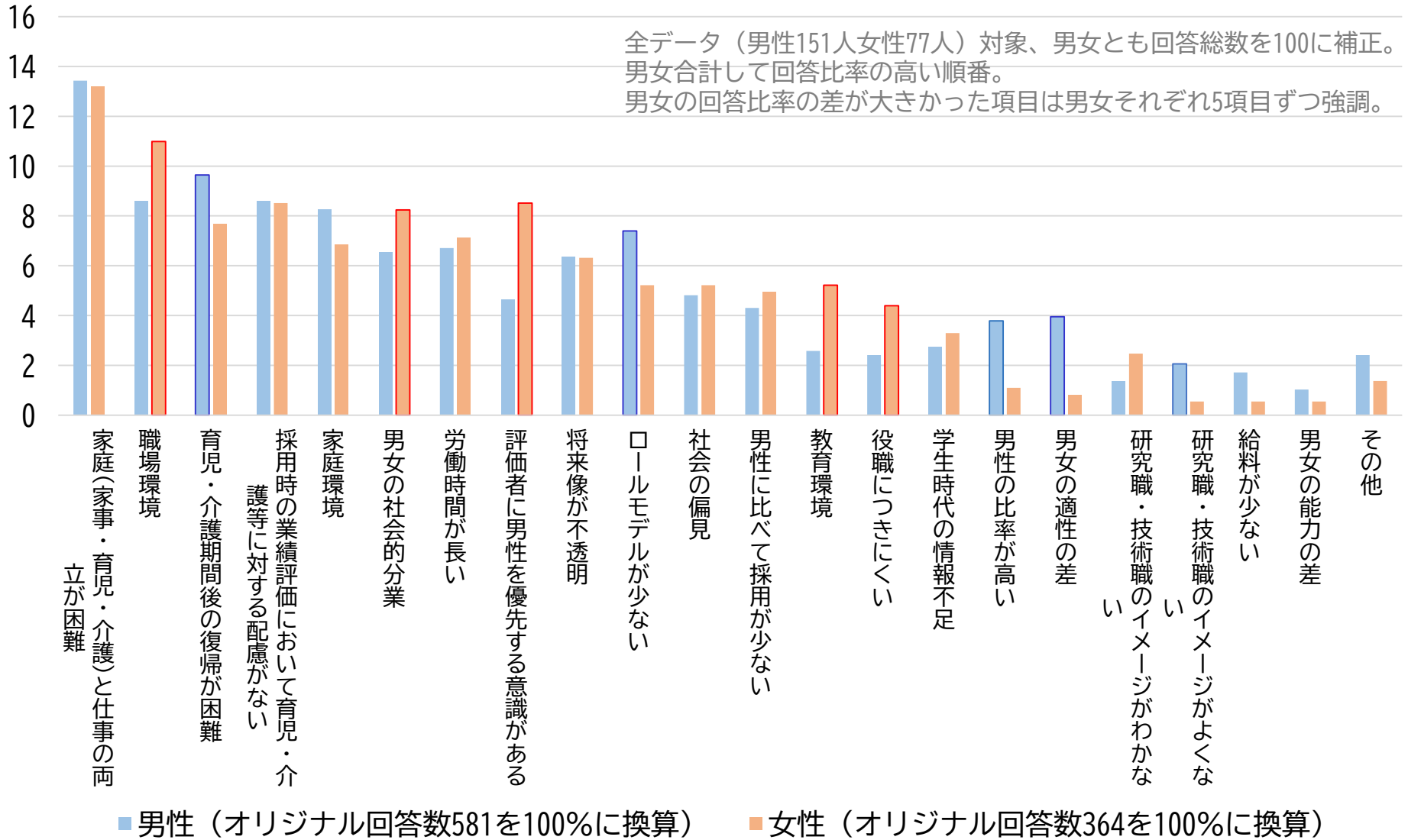


男性：「経済的理由」がトップ（女性では低い）。⇒共働きでない場合が多いため？

女性：「育児とキャリア形成の両立」がトップ 男性でも2位。両性にとって重要。

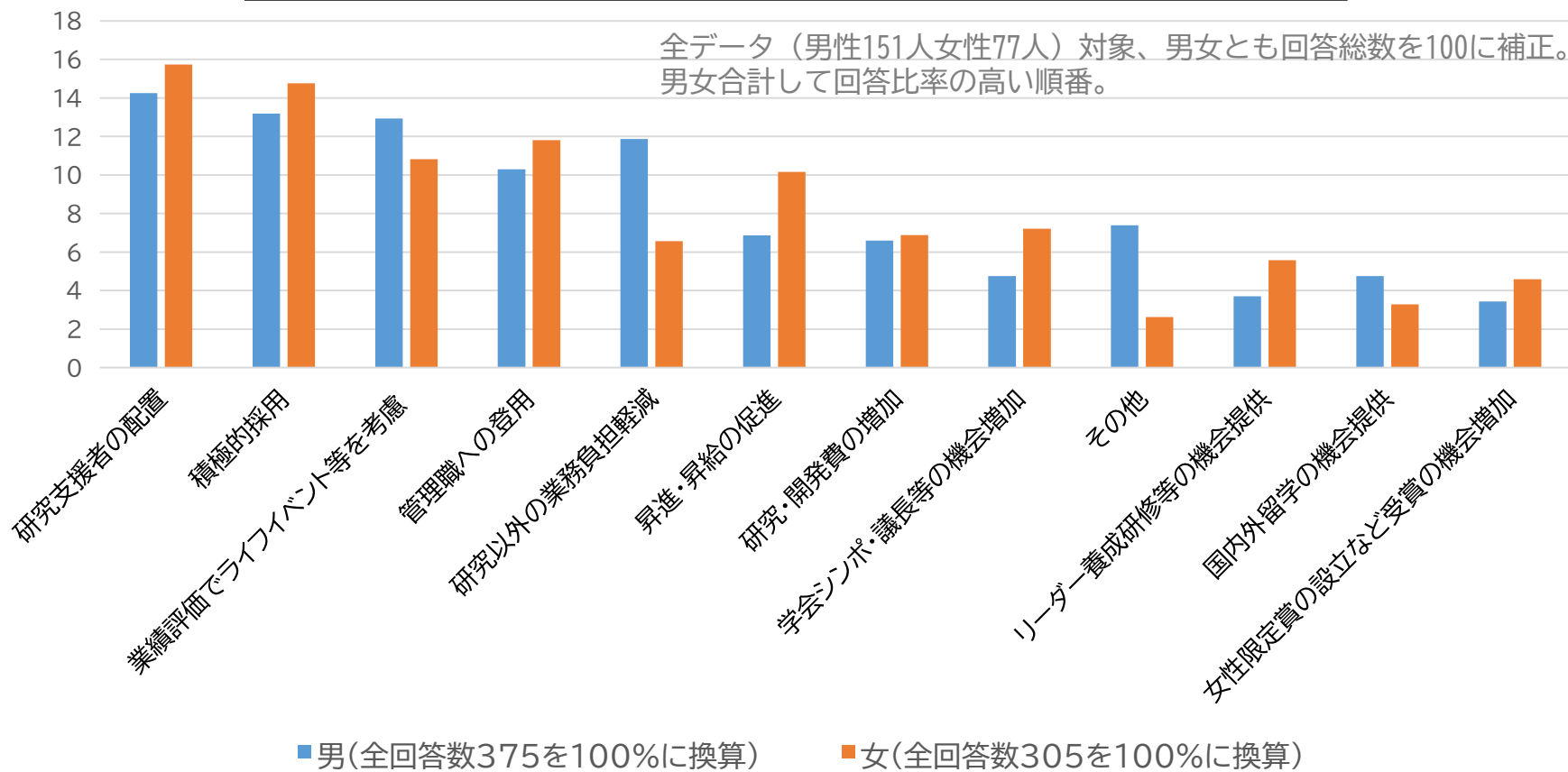
女性研究者が少ない理由

全データ（男性151人女性77人）対象、男女とも回答総数を100に補正。
 男女合計して回答比率の高い順番。
 男女の回答比率の差が大きかった項目は男女それぞれ5項目ずつ強調。



「家庭と仕事の両立が困難」：男女とも最も回答率が高い
 その他、ジェンダーに起因、空白からの復帰が困難、など

研究職女性比率が低い現状改善のために必要な措置



学会としてどのような取り組みが可能か？

解剖学会員アンケート結果解析のまとめ

1. アンケートの概要

1. 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート—およそ4年に1回、90学会の会員に実施。2万人規模のWeb上アンケート。
2. 解剖学会員のアンケート参加状況—解剖学会員（男女）の回答率は10%で生命系学会平均17%に比べ低調。
⇒ 次回アンケート（2021年予定）には是非多くの会員の皆様のご回答をお願いします

2. 解剖学会員のアンケート回答の解析結果と他学会との比較

1. 他学会と同様の結果だったもの

- ① 職位：上位職ほど女性が少ない、女性のキャリアアップが遅い
- ② ライフイベント：女性会員は男性会員に比べ独身比率が高く、既婚者も子供が少ない。
- ③ 現状に対する認識：家庭との両立（男女とも重視）、評価側の意識（女性が重視）が重要と考えている。

2. 解剖学会に特有の回答結果

- ① 職位：「国公立大学」と「医歯薬学部」で男女の職位格差が顕著。⇔私立大学、理学、農学、etc.
- ② ライフワークバランス：男女とも職場滞在時間が他学会より長い

3. 考察

1. 職位の男女差、家族構成の男女差が存在＝「男女が同等に参画していない（できない）」ことを示している
2. 「国公立大学」「医歯薬学部」でなぜ職位の男女差が顕著？＝医学系学会の特徴？解剖学会のみ？不明。
3. ライフイベントとの関係では、子育てが女性（だけ）のキャリアアップに影響している。
4. 男女共同参画との関連は不明ながら、解剖学会員は職場滞在時間が長い。他分野より長い理由は不明だが、家庭との両立とは相反する。「短い職場滞在時間でも仕事が進む、軽い家事負担でも家庭が成立する」ことが必要。
5. 学会員の問題意識、解決に向けた要望が挙げられている。学会として改善の方策を検討するための判断材料となりうる。